

Junos Space Security Director

製品概要

最近の環境は複雑になり、管理ソリューションが低速だったり、直感的に使用できなかったり、きめ細かな制御や可視化ができなかったりすると、ネットワークセキュリティの管理に要する時間が長期化してエラーが発生しやすくなります。Junos Space Security Director では、単一の Web ベース インターフェイスから直感的に、物理、論理、仮想すべてのファイアウォール (SRX シリーズ サービス ゲートウェイと vSRX) のセキュリティ ポリシーを管理でき、新たなリスクや従来のリスクに対応したポリシーを適用できます。

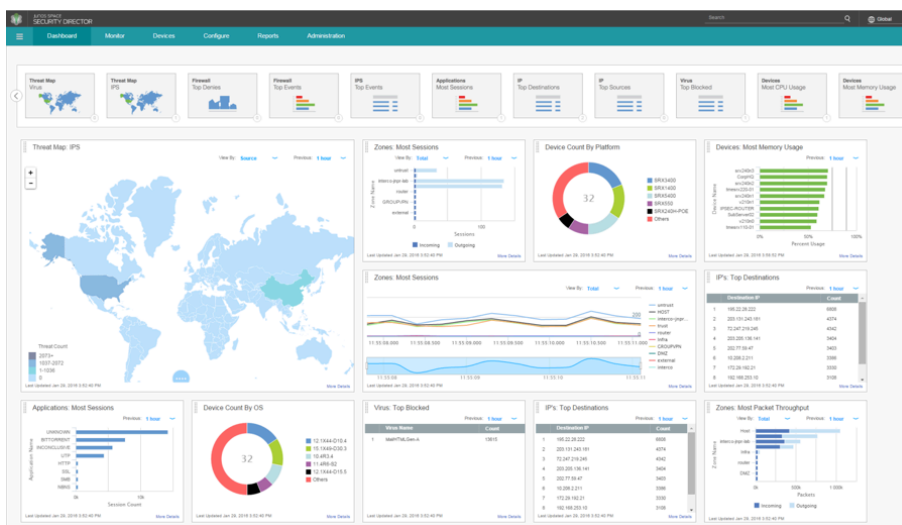
製品説明

ジュニパーネットワークス Junos® Space Security Director は、革新的で直感的、インテリジェントな Junos Space ネットワーク管理プラットフォームで動作するアプリケーションです。アプリケーションのパフォーマンスを細かく監視しながら、リスクを緩和でき、問題を「検知」すると、その問題を修正するための「対処」にすぐに移ることができます。

Security Director を使用すると、拡張性、きめ細かなポリシー制御、多様なポリシーがネットワーク全体に提供されます。システム管理者は一元化された Web ベース インターフェイスを使用して、ステートフルファイアウォール、UTM (統合脅威管理)、侵入防御、AppFW (アプリケーションファイアウォール)、VPN、NAT (ネットワークアドレス変換) のセキュリティ ポリシー ライフ サイクルにおけるあらゆる段階を管理できます。Security Director では、実行可能なインテリジェンス、自動化、効率的なセキュリティ ポリシー、直感的なワークフロー、パワフルなアプリケーションとプラットフォームのアーキテクチャが提供され、脅威の発生を検知し、修復策をリアルタイムに適用できるので、管理コストが削減されてエラーが減少します。

Security Director のダッシュボードには、豊富な情報とカスタマイズ可能なウィジェットが用意されていて、セキュリティ デバイスの状態を簡単に把握できます。パレットでは、ファイアウォール、脅威、IPS (侵入防御システム)、アプリケーション、スループット、デバイス関連情報の間を簡単に移動できます。これらを使用して、ジュニパーネットワークス SRX シリーズ サービス ゲートウェイ ファイアウォール環境の表示をカスタマイズできます。

ダッシュボードでは、SRX シリーズのデバイスのうち、アラームが最も多いのはどれか、特定の期間に CPU サイクルや RAM を最も多く消費しているのはどれかをすぐに判断することができます。Threat Map (脅威マップ) ウィジェットには、検知された IPS イベント数が地域別に表示され、業界屈指の情報収集機能と修復機能を活用できます。



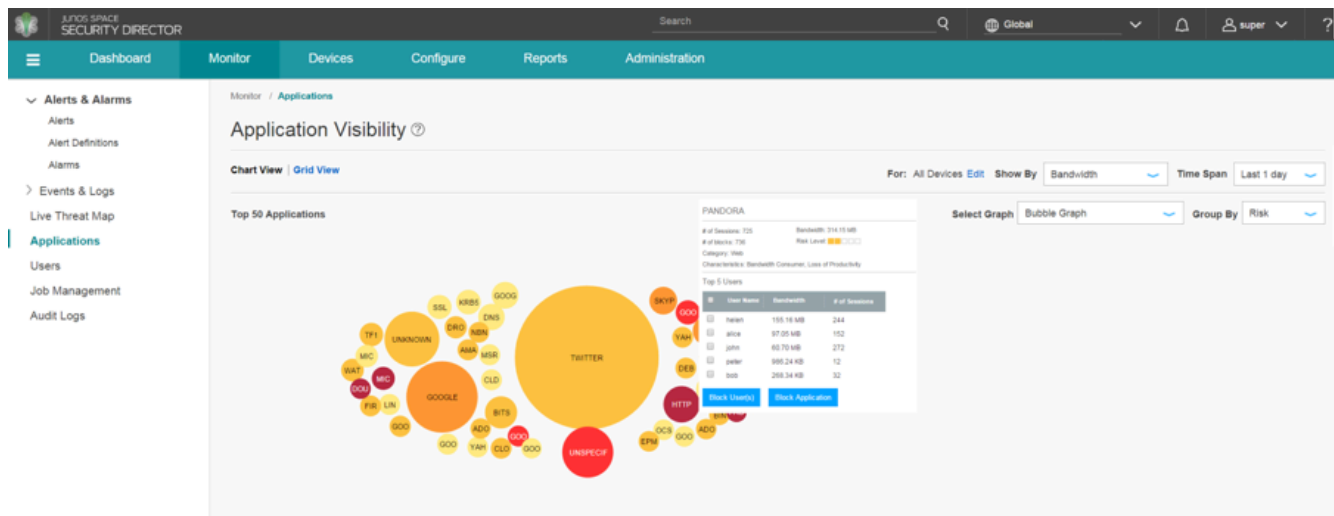


図 2：Application Visibility（アプリケーションの可視化）ダッシュボードの機能

ウィジェットで絞り込みを行うと、さまざまなイベントの並べ替えや検索ができ、上位のブロック済みウイルス、宛先、送信元などの詳しい情報を簡単に取得して、ネットワークの安全性確保に使用できます。

Security Director は、アプリケーションとユーザー環境の管理に対応した、業界で最も革新的なソリューションです。ネットワーク管理者は、3 つの異なるビューを選択して、アプリケーションとユーザーがネットワークに与えている影響、帯域幅の利用状況、作成されたセッション数を確認できます。最もリスクの高いアプリケーションのような、さらにきめ細かな表示にも対応します。期間を比較して、一般的にいつが利用率のピークなのかを確認することもできます。

Security Director では、他の製品のように、複数のレポートを実行したり複数のタブを開いた後で、手動によってデータを分析して、誰がどのアプリケーションをどの程度使用しているかを確認する必要がありません。その代わりに、システム管理者はアプリケーションのアイコンやユーザー / ユーザー グループのアイコンを選択するだけで、ユーザーとアプリケーションを簡単に関連付けられます。

実行可能なインテリジェンス

大半のセキュリティ管理ソリューションでは、レポートを実行するか複数のタブを開いて、管理対象のアプリケーションやユーザーを探す必要があります。こうした場合、必要なファイアウォール ルールを手動で作成し、ルールの配置先を決定し、既存ルールとの競合による新しい問題が多数発生しないことを願わなければなりません。これは、退屈で時間がかかり、エラーが発生しやすいプロセスです。

Security Director では、実行可能なインテリジェンス機能が提供され、このような時代遅れのプロセスは不要になります。実行可能なインテリジェンスを使用した場合、システム管理者は、Application Visibility（アプリケーション可視化）チャートまたは User Visibility（ユーザーの可視化）チャートからアプリケーションやユーザー / ユーザー グループを 1 つ以上選択し、[Block]（ブロック）を選択するだけです。要求したルールが自動的に作成され、ポリシー内の最適な場所に展開されます。変則的な処理は避けられ、アプリケーションとユーザー環境の管理に関する当て推量は排除されます。

表 1：Junos Space Security Director の特長とメリット

特長	説明	メリット
ファイアウォール ポリシーの分析	シャドウイングや重複のあるファイアウォール ルールを示し、報告されたすべての問題に関する修復アクションを推奨する機能があります。	システム管理者は、非効率なルールと不要なルールを簡単に特定して、ファイアウォール ポリシーを効率的に保つことができます。
ファイアウォール ルール交換のガイダンス	新しいルールを作成すると、既存のファイアウォール ポリシーが分析され、最適な順番が推奨されます。	シャドウイング ルールが著しく減少します。
ファイアウォール ポリシー ヒット カウント	各ファイアウォールのヒット カウントがメーターで示され、フィルターを適用すると、最もヒットの少ないルールも表示されます。Security Director には、ライフタイム ヒット カウントを維持する機能もあります。	システム管理者は、各ファイアウォール ルールの有効性の評価、および使用されていないルールの迅速な特定ができ、管理対象のファイアウォール環境の状態が改善します。
ライブの脅威マップ	脅威の発生元がほぼリアルタイムに表示されます。	ネットワーク関連の脅威に関する情報がほぼリアルタイムに提供されます。
革新的なアプリケーションの可視化と管理	帯域幅を最も多く使用しているアプリケーション、セッション数が最も多いアプリケーション、リスクが最も高いアプリケーションを簡単かつ直感的に確認できます。このビューでは、クリックするだけで、ブロックなどのアクションを開始できます。	ネットワーク全体の可視化、ポリシー適用、制御、防御が向上します。
簡素化された脅威管理	脅威の発生元と脅威の場所がグローバルマップで通知されます。ブロックする国にマウスのポインタを置くだけで、簡単にブロックできます。	ネットワーク関連の効果的な脅威管理に必要な情報が提供されます。

特長	説明	メリット
スナップショットのサポート	設定のバージョンのスナップショット作成、比較、ロールバックが簡単にできます。	設定の変更が簡素化するうえ、設定エラーからの復元が可能です。
ポリシーのライフ サイクル管理	作成、展開、監視、修復、メンテナンスといったすべての段階のセキュリティ ポリシー ライフ サイクルを管理できます。	<ul style="list-style-type: none"> ステートフル ファイアウォール、AppFW、UTM、IPS、VPN、NAT を Junos Space Security Director 管理コンソール 1 台で中央制御できます。 共通のポリシー タスクを単一のインターフェイスで統合して、管理を簡単にします。 複数のデバイスにわたるポリシーの再利用を可能にして、エラー数を削減します。
ドラッグアンドドロップ	ファイアウォール、IPS、NAT のルールを新しい場所にドラッグするだけで、順番を変更できます。	ファイアウォール、IPS、NAT のオブジェクトをセル間でドラッグするか、ポリシー テーブル下部のパレットからドラッグして、オブジェクトの追加やコピーができます。
VPN のインポート	SRX シリーズ VPN を Security Director にインポートできます。	既存の SRX シリーズ VPN の管理が簡単になります。
ポリシーとオブジェクトに対する役割ベースのアクセス	デバイス、ポリシー、オブジェクトをドメイン内に配置して、読み取り / 書き込み権限をユーザーに割り当てることができます。	ポリシーとオブジェクトに関する管理の責任を区分できます。
自動化に対応した REST API	自動化ツールと一緒に使用可能な RESTful API が提供されます。	物理、論理、仮想の SRX シリーズ デバイスの設定と管理が自動化します。
Junos Space Log Director アプリケーションによるログ収集と通知	ログ収集と通知を統合できます。	<p>Junos Space Security Director と緊密に連携します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールとイベントを同じウィンドウに表示 システム管理者が、ログと対応するルール間でビューを簡単に切り替えることが可能 <p>Junos Space Security Director のポリシーとオブジェクトに直接アクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> RBAC（役割ベースのアクセス コントロール） イベントの集約とフィルター用のイベント ビューア グラフをカスタマイズ可能なダッシュボード レポートの生成と電子メールによる自動送信 しきい値に基づいて自動生成される電子メールのアラート <p>SRX シリーズの正常性監視：</p> <ul style="list-style-type: none"> CPU 利用状況 メモリ利用状況 VPN 監視 <p>SIEM（セキュリティ情報およびイベント管理）へのシステムログ転送</p>

仕様

サポートされるブラウザ

Security Director は次のブラウザで最適に表示されます。

- Google Chrome v.33.x 以上
- Internet Explorer v.10.x 以上
- Firefox v.30.x 以上
- Safari v.7.x 以上

VMware のバージョン

Junos Space は VMware vSphere 4.0 以上と連携します。

Junos (OS) ソフトウェア

SRX シリーズ サービス ゲートウェイは Junos OS ソフトウェアで動作します。Junos Space Security Director は、Junos OS 10.3 以降のリリースを実行しているジュニパーのデバイス上で動作します。

Junos Space ネットワーク管理プラットフォーム

Junos Space Security Director 15.2 は Junos Space 15.2R1 以降のリリースで動作します。

ジュニパーネットワークスのサービスとサポート

ジュニパーネットワークスは、高性能なサービス分野のリーダーであり、ネットワークの高速化、拡張、最適化を目指しています。当社のサービスを利用することで、コストを削減し、リスクを最小限に抑えながら、生産性を最大限に高め、より高速なネットワークを構築し、価値を高めることができます。また、ネットワークを最適化することで、必要な性能レベルや信頼性、可用性を維持し、卓越した運用を保証します。詳細については、www.juniper.net/jp/jp/products-services/ をご覧ください。

ジュニパーネットワークスについて

ジュニパーネットワークスは、ネットワークイノベーション事業に従事しています。デバイスからデータセンターまで、消費者からクラウドプロバイダまで、ジュニパーネットワークスはネットワークの使い勝手や経済性を向上させるソフトウェア、シリコン技術やシステムを提供しています。ジュニパーネットワークスは、世界中のお客様とパートナー企業のために尽力しています。詳しい情報は、www.juniper.net/jp/ をご覧ください。

米国本社

Juniper Networks, Inc.
1133 Innovation Way
Sunnyvale, CA 94089 USA
電話：888.JUNIPER (888.586.4737)
または +1.408.745.2000
FAX：+1.408.745.2100
www.juniper.net

アジアパシフィック、ヨーロッパ、 中東、アフリカ

Juniper Networks International B.V.
Boeing Avenue 240
1119 PZ Schiphol-Rijk
Amsterdam, The Netherlands
電話：+31.0.207.125.700
FAX：+31.0.207.125.701

ジュニパーネットワークスのソリューションの購入については、03-5333-7410 にお電話いただくか、認定リセラーにお問い合わせください。